

2017年度決算および 中期経営計画の進捗について

2018年5月23日
日本軽金属ホールディングス株式会社

1. 2017年度連結決算

2. 中期経営計画の進捗

① 2018年度連結業績予想

② 3ヶ年計画遂行指針および進捗

1. 2017年度連結決算

2. 中期経営計画の進捗

① 2018年度連結業績予想

② 3ヶ年計画遂行指針および進捗

2017年度決算 — 前期比

(億円)

	2017年度 実績	2016年度 実績	増減
売上高	4,814	4,484	+330 (+7.4%)
営業利益	299	302	△3 (△1.1%)
経常利益	295	263	+32 (+12.5%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	180	195	△15 (△7.7%)
有利子負債	1,400	1,498	△98
D / E レシオ	0.8倍	0.9倍	△0.1p
R O C E	10.7%	9.6%	+1.1p

* 2017年度実績ROE(自己資本利益率): 10.8%

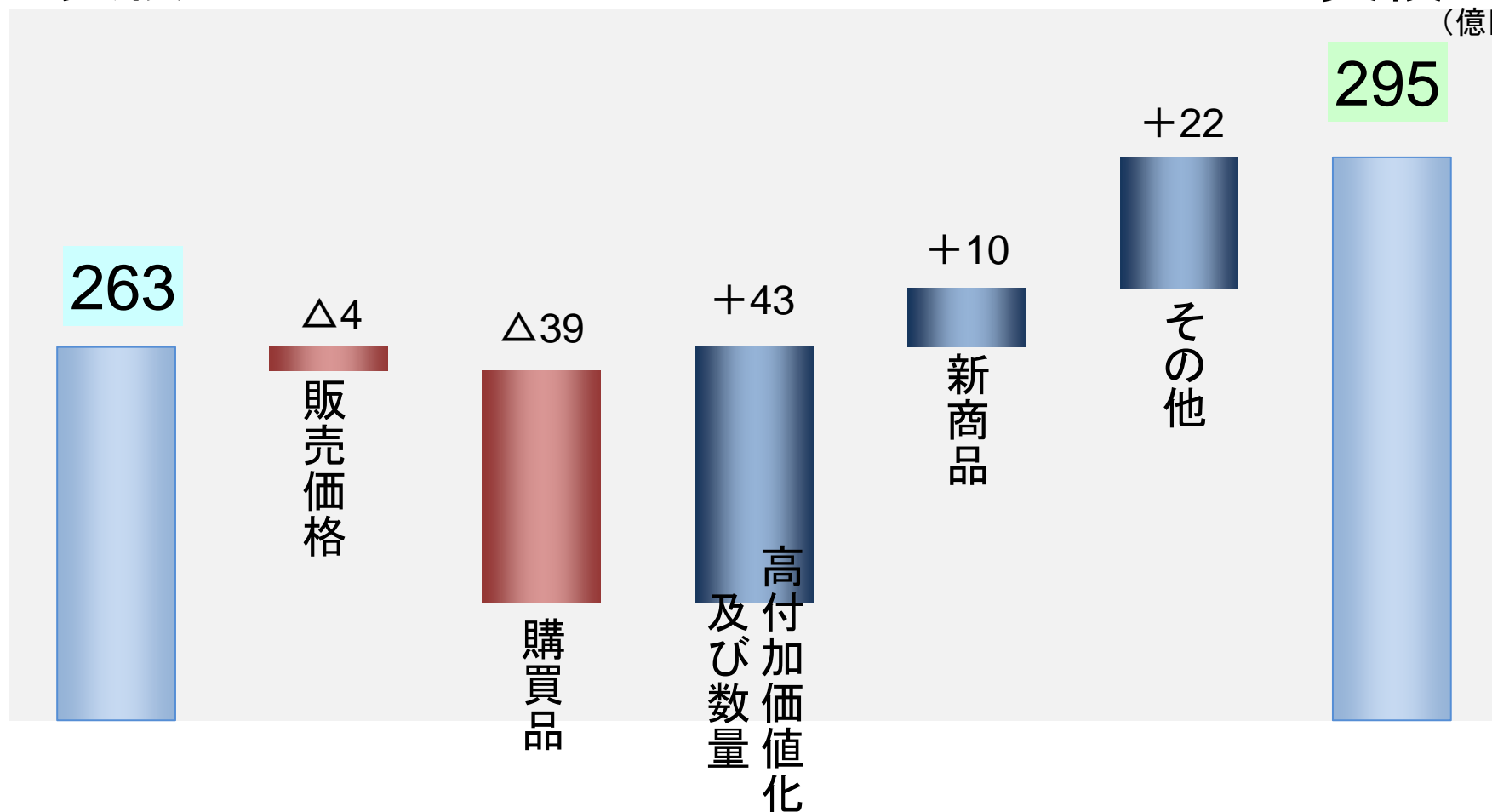
経常利益変化要因 – 前期比

2016年度
実績

+32億円

2017年度
実績

(億円)



セグメント情報 – 前期比

(億円)

	売上高			営業利益		
	2017年度 実績	2016年度 実績	増減	2017年度 実績	2016年度 実績	増減
アルミ・化成品、 地 金	1,111	1,018	+93 (+9.1%)	89	101	△12 (△11.6%)
板、押出製品	1,069	982	+87 (+9.0%)	98	78	+20 (+25.6%)
加工製品、 関連事業	1,690	1,547	+143 (+9.3%)	98	102	△4 (△4.5%)
箔、粉末製品	944	937	+7 (+0.7%)	49	55	△6 (△11.4%)
管 理 ・ 共 通			—	△35	△34	△1
合 計	4,814	4,484	+330 (+7.4%)	299	302	△3 (△1.1%)

目次

1. 2017年度連結決算

2. 中期経営計画の進捗

① 2018年度連結業績予想

② 3ヶ年計画遂行指針および進捗

2018年度業績予想 – 前期比

(億円)

	2018年度 予想	2017年度 実績	増減
売上高	5,100	4,814	+286 (+5.9%)
営業利益	320	299	+21 (+7.0%)
経常利益	310	295	+15 (+5.0%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	200	180	+20 (+11.0%)
有利子負債	1,380	1,400	△20
D / E レシオ	0.7倍	0.8倍	△0.1p
R O C E	10.8%	10.7%	+0.1p

* 2018年度予想ROE(自己資本利益率): 11.0%

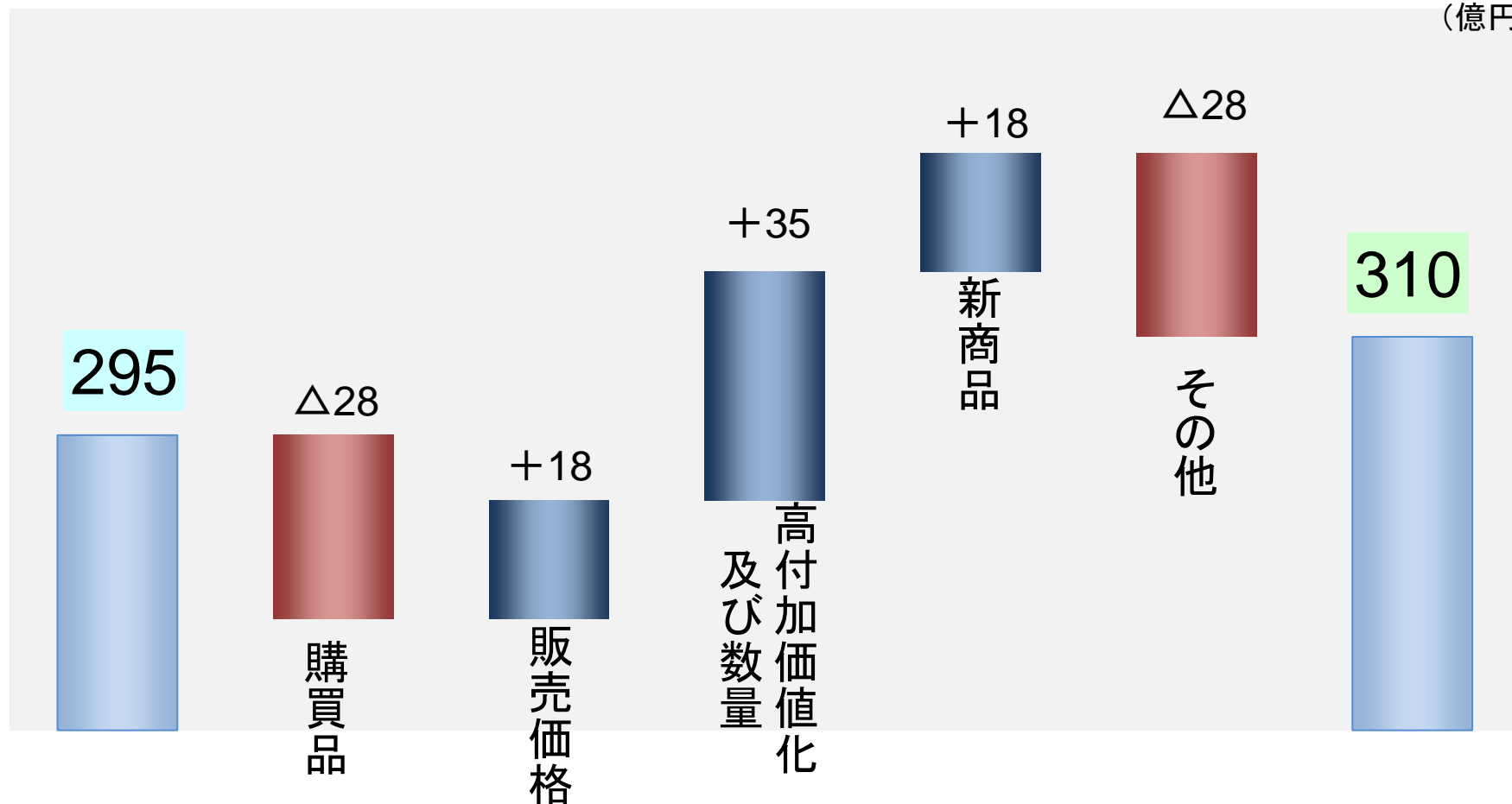
経常利益変化要因 – 前期比

2017年度
実績

+15億円

2018年度
予想

(億円)



目次

1. 2017年度連結決算

2. 中期経営計画の進捗

① 2018年度連結業績予想

② 3ヶ年計画遂行指針および進捗

基本方針

1. グループ連携による新商品・新ビジネスモデルの創出

- グループ連携の強みを徹底的に追求した高付加価値を提供
- 顧客視点に基づき、ものづくりに周辺サービスを含めた商品・ビジネス開発

2. 地域別 × 分野別戦略による事業展開

- 資源投入する分野を地域と市場のマトリクスから選別
- ビジネスに応じ自由自在に集合・離散できる俊敏な組織運営

3. 企業体質強化（事業基盤強化）

- グループ連携視点でビジネス創生できる人財の育成
- 課題事業の収益向上

主要指標

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 予想	2018年度 中計目標
売上高	4,644	4,484	4,814	5,100	5,000
営業利益	268	302	299	320	320
経常利益	245	263	295	310	310
親会社株主に帰属する 当期純利益	155	195	180	200	200
有利子負債	1,822	1,498	1,400	1,380	1,600
D / E レシオ	1.4倍	0.9倍	0.8倍	0.7倍	1.0倍以下
R O C E	9.0%	9.6%	10.7%	10.8%	10.0%超
1株当たり配当	6円	8円	8円	8円	早期に 7円以上

基本方針

1. グループ連携による新商品・新ビジネスモデルの創出

- ▶ グループ連携の強みを徹底的に追求した高付加価値を提供
- ▶ 顧客視点に基づき、ものづくりに周辺サービスを含めた商品・ビジネス開発

2. 地域別 × 分野別戦略による事業展開

- ▶ 資源投入する分野を地域と市場のマトリクスから選別
- ▶ ビジネスに応じ自由自在に集合・離散できる俊敏な組織運営

3. 企業体質強化（事業基盤強化）

- ▶ グループ連携視点でビジネス創生できる人財の育成
- ▶ 課題事業の収益向上

縦串・横串 縦横に駆使した新しい商品の例

分野	事業部門	商品
自動車	日本軽金属、日軽金アクト	EV・PHEV向けバッテリー冷却プレート
	日本軽金属	LiB材料
輸送	日本フルハーフ、日軽金アクト、ニッケイ・サイアム	10ドアバン、10ドアキット
電機電子 ・情報通信	日本軽金属、東洋アルミニウム	LiB正極材
	日本軽金属、東陽理化学研究所	PC筐体
	日本軽金属、東洋アルミニウム、日軽金アクト、東陽理化学研究所	半導体製造装置関連
	日本軽金属、日軽金アクト、日軽パネルシステム、日軽産業、NLMエカル	データセンター関連
環境・安全 ・エネルギー	日本電極	LiB負極材
	日本軽金属	LiB向け低ソーダアルミナ
	東洋アルミニウム	軽量モジュール
その他	日本軽金属、日軽産業、理研軽金属工業	吸音機能付仕上材
	日本軽金属、日軽パネルシステム	ジェネスタ®不燃
	日軽パネルシステム	医薬・バイオ向け

素材から攻める環境対応車周辺ビジネス

例えば ... リチウムイオン電池関連商品

素材に対する深いビジネス蓄積により
巾広いグループ商材で要求機能提供

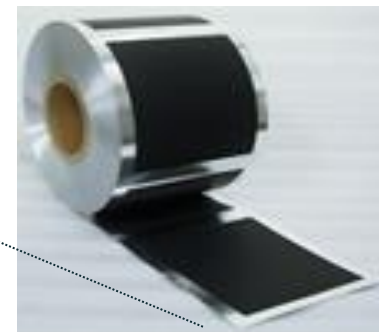
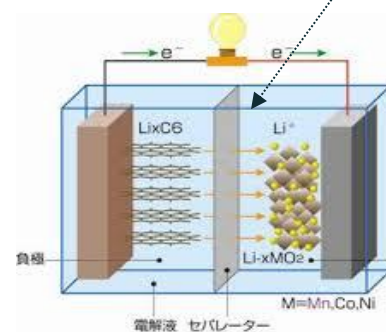
ケース関連



低ソーダアルミナ

正極材・負極材関連

様式別ケース用材料
(角形・ラミネート・円筒)



電極用箔

- 日本軽金属
- 東洋アルミニウム
- 日軽金アクト
- 日本電極

部品から攻める環境対応車周辺ビジネス

EV・PHEV向け

例えば ... バッテリー冷却プレート

チーム日軽金で

設計から素材開発・加工・組立まで
お客様にとっての最大価値提供

【市場環境】

各国での環境規制強化に伴い、電動化シフト加速

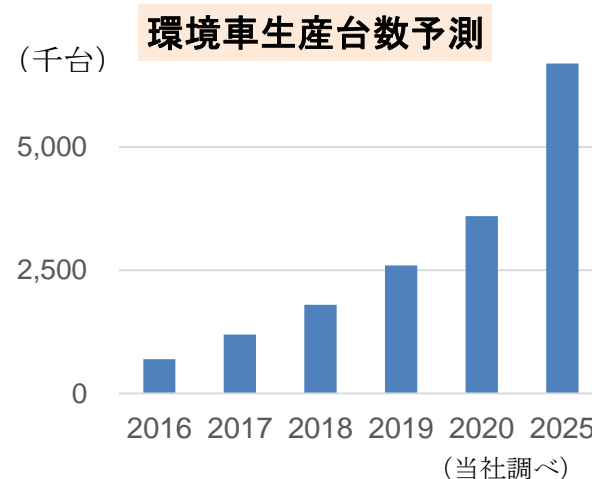
【チーム日軽金の強み】

難形状・高精度押出、機械加工技術、
歪みのない高周波接合(薄板)、組立技術



日本軽金属

日軽金アクト



ZEV規制 2018年施行



NEV法 2019年施行



排ガス規制 2021年施行

AI・IoTなど先端IT産業を支える素材・部品群

例えば ... 半導体製造装置関連



【市場環境】

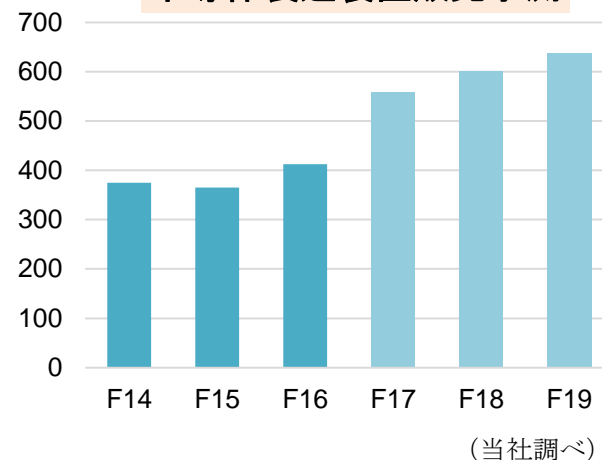
・拡大基調継続

IoT ⇒ 通信量増加 ⇒ 大容量サーバー増加
⇒ 3D NAND フラッシュメモリーの需要拡大

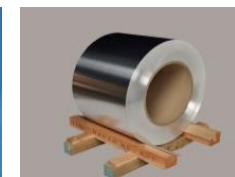
【当社グループの商材】

- ・半導体製造装置向け厚板、金属部品
- ・各種装置プレート関連向け押出材
(エッチング装置・平坦化装置等)
- ・セラミックス基板向けアルミナ
- ・基板・放熱部品向け窒化アルミ

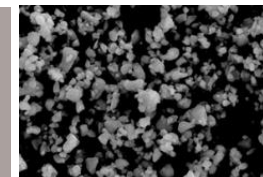
(億ドル) 半導体製造装置販売予測



アルミナ



厚板



窒化アルミ

日本軽金属

東洋アルミニウム

日軽金アクト

東陽理化学研究所

世の中の進歩に先駆ける高機能空間の創出

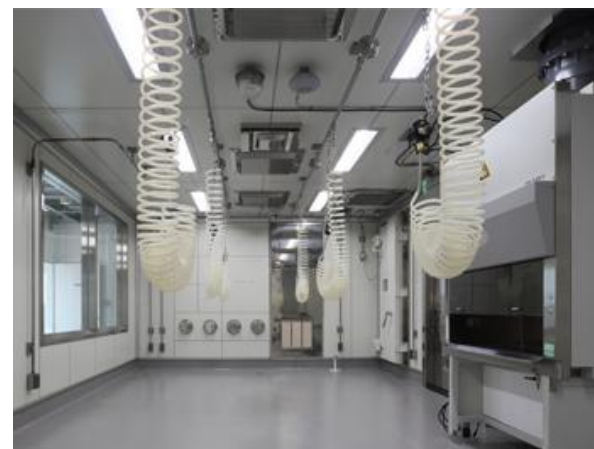
医薬・バイオ向けクリーンルーム
例えば... ノンフロン断熱不燃パネル

【市場環境】

最先端の医薬・医療設備で需要増加
— 再生医療やバイオ医薬品など

【強み・・・設計から施工まで】

- ・用途に合わせた空間構築が可能
- ・工期短縮に貢献
- ・優れた断熱性能
- ・用途に合わせて選べる豊富な仕様
- ・レイアウト変更に対応



【採用例】バイオセーフティ施設
世界保健機構の「実験室バイオセーフティ指針」が
求める最高レベルの建築設備を有する実験施設
(株)竹中工務店様 技術研究所内)

第27回
地球環境大賞
Since 1992

日本経済団体連合会会長賞受賞

- ・ 日軽パネルシステム全工場でのノンフロン化を達成
- ・ サプライチェーンで年間30万トン相当のCO2排出削減



日本軽金属

日軽パネルシステム

基本方針

1. グループ連携による新商品・新ビジネスモデルの創出
 - ▶ グループ連携の強みを徹底的に追求した高付加価値を提供
 - ▶ 顧客視点に基づき、ものづくりに周辺サービスを含めた商品・ビジネス開発
2. 地域別×分野別戦略による事業展開
 - ▶ 資源投入する分野を地域と市場のマトリクスから選別
 - ▶ ビジネスに応じ自由自在に集合・離散できる俊敏な組織運営
3. 企業体質強化（事業基盤強化）
 - ▶ グループ連携視点でビジネス創生できる人財の育成
 - ▶ 課題事業の収益向上

素材と組立て つながる強み

日本フルハーフ、日軽金アクト

輸送分野

【市場環境】

需要高水準継続

排ガス規制、物流会社投資意欲、東京五輪

【施策】

・フルハーフ厚木

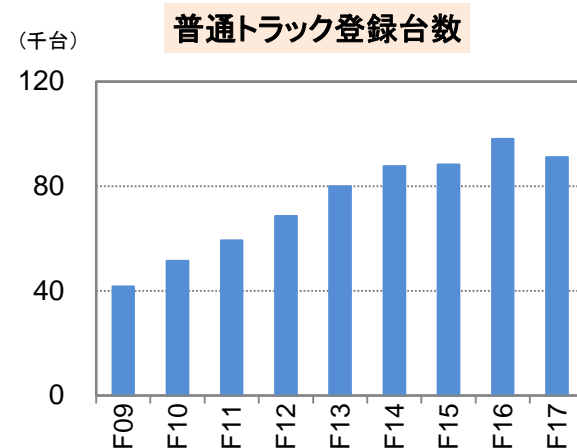
フル操業、一部車種で長納期化

⇒新塗装工場竣工(2017年3月)、厚木増産体制構築

・アクト新潟

架装部品の加工能力増強、新加工棟竣工(2017年8月)

⇒厚木の加工負荷軽減



<出所: 日本自動車販売協会連合会>



塗装工場



連結トレーラー

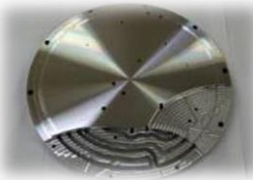
⇒高付加価値+グループ連携による生産能力増強

小ロット・短納期 時代の要請に対応

日本軽金属

概要	名古屋工場 焼鈍炉増設
市場	高付加価値品需要増加 半導体製造装置関連 車載電池向け材料等
稼働	2018年10月
	※2016年9月にも能力増強を実施済

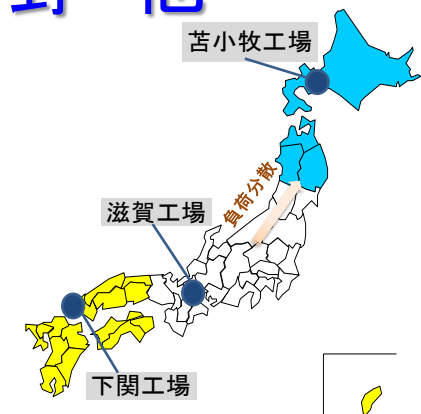
電機・電子分野 他



日軽パネルシステム

概要	苫小牧工場 生産ライン増強
市場	全国的に不燃需要が増加
目的	混合生産体制構築(断熱不燃パネル、断熱パネル) 滋賀工場の負荷分散 省人化等のパイロット工場
稼働	2018年3月

食品・健康分野 他

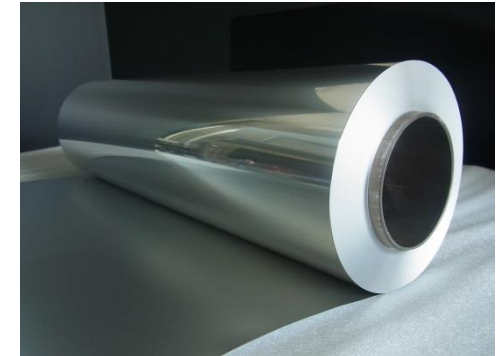


新しい事業領域へチャレンジ

東洋アルミニウム

自動車・環境分野

概要	蒲原製造所 連続鋳造機導入
目的	リチウムイオンバッテリー用を中心とした 高強度箔等の開発
稼働	2018年11月



東洋アルミニウム

電機・電子分野 他

概要	日野製造所 窒化アルミ生産ライン増強
特徴	熱伝導率と高い絶縁性
市場	需要旺盛 …半導体製造装置、放熱フィラー
稼働	2018年7月



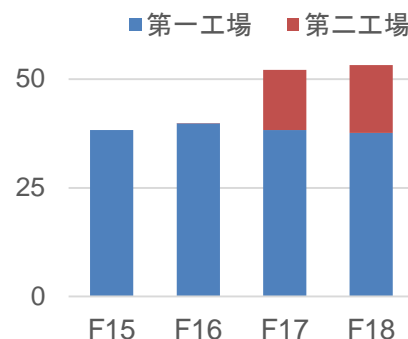
小さく生んで大きく育てる 地産地消の海外戦略

日軽エムシーアルミ タイ第2工場 自動車分野

生産開始 2017年3月
 生産能力 18,000t/年

- 拡販とコストダウンで収益力向上
 - 小型塊の拡販
 - エネルギー原単位改善、材料配合の見直し等

販売量(千t/年)



東洋アルミニウム インド生産販売拠点 パウダー・ペースト分野

目的 汎用塗料向けアルミペーストの生産販売
 ターゲット市場 インド、ASEAN、中東、アフリカ、南米等
 共同出資 東洋アルミ(74%)、MMP(26%)
 立地 インド共和国マハラシュトラ州ナグプール
 生産開始 2017年12月
 生産能力 2,200t/年



基本方針

1. グループ連携による新商品・新ビジネスモデルの創出

- ▶ グループ連携の強みを徹底的に追求した高付加価値を提供
- ▶ 顧客視点に基づき、ものづくりに周辺サービスを含めた商品・ビジネス開発

2. 地域別×分野別戦略による事業展開

- ▶ 資源投入する分野を地域と市場のマトリクスから選別
- ▶ ビジネスに応じ自由自在に集合・離散できる俊敏な組織運営

3. 企業体質強化（事業基盤強化）

- ▶ グループ連携視点でビジネス創生できる人財の育成
- ▶ 課題事業の収益向上

課題事業 チーム日軽金として経営資源の集中投入

日本軽金属

- (現況) F17は原燃料高騰で価格改定等実施したが前年比減益
 (対策) 高付加価値化による基礎収益力の改善
 新商品の開発・新規探索の強化



化成品事業

ソンリンフルーフ(中国)

- (現況) 17年通期では赤字だが下半期は黒字に転換
 (対策) 通年黒字化に向け、
 商品改良によるコスト削減と整流化
 販売店拡充とサービス含めた質の向上



トレーラ・トラック架装事業

フルーフマハジャック(タイ)

- (現況) ピックアップ数量増により前年比改善だが依然赤字
 (対策) 販売店営業の強化、サービス体制構築、
 規模に合わせたスリム化とコスト低減



トラック架装、パネル事業

ニッケイ・サイアム(タイ)

- (現況) 大型物件引合い増加傾向だが、コスト低減遅れで依然赤字
 (対策) 小型セット品の商品化、エンジニアリング強化、グループ協業

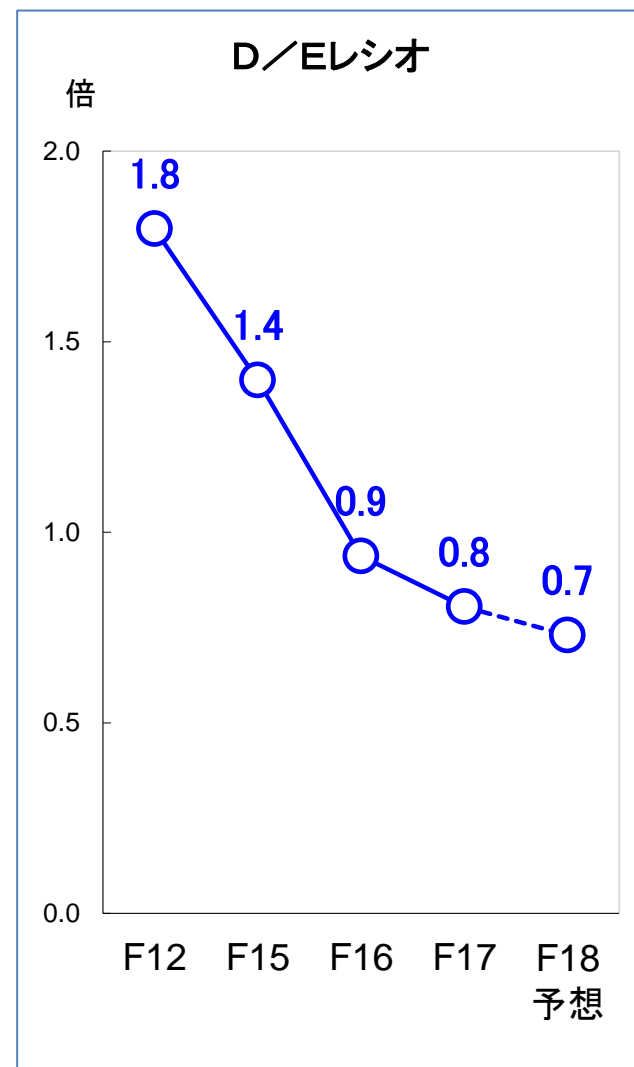


パネル事業

異次元へはばたくベース 財務体質改善

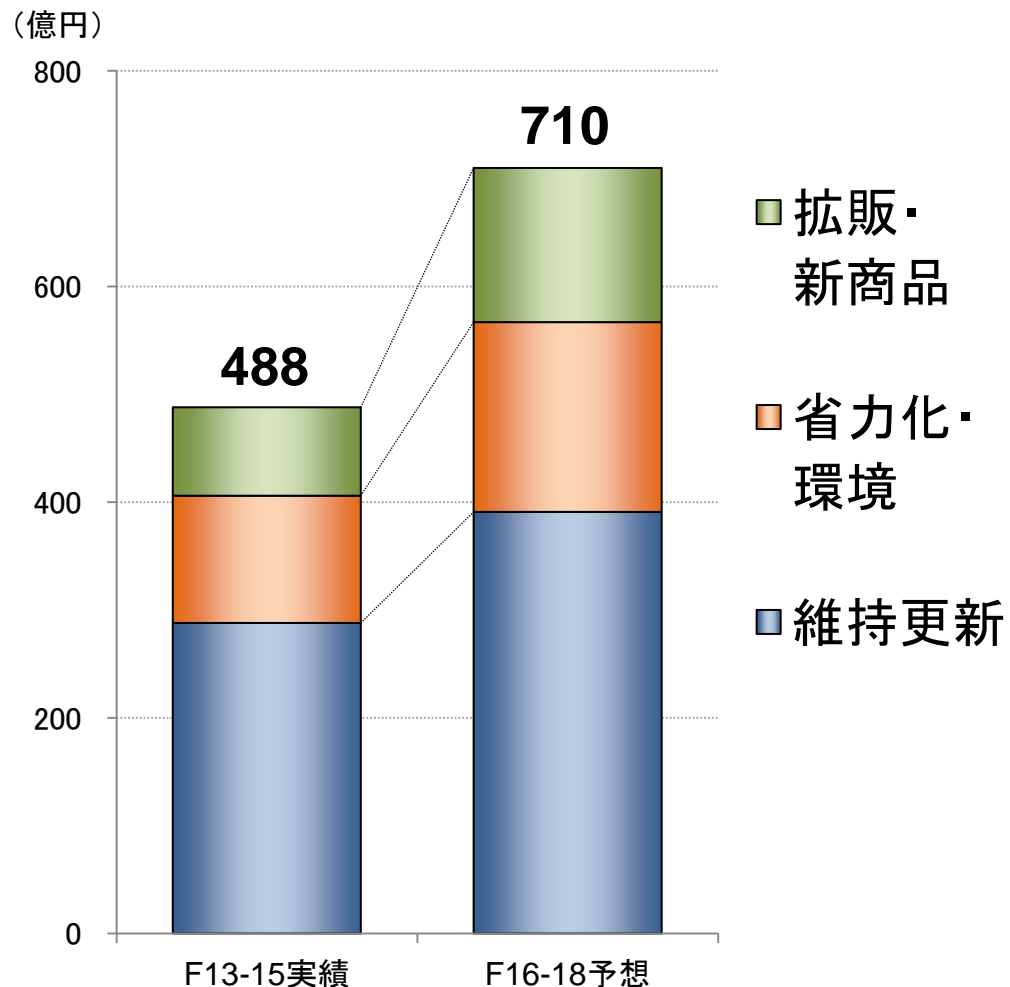
中計目標をF16で達成済

	F15 実績	F16 実績	F17 実績	F18 予想	中計 目標 F18
有利子 負債 (億円)	1,822	1,498	1,400	1,380	1,600
D/E レシオ (倍)	1.4	0.9	0.8	0.7	1.0以下
1株当たり 配当金 (円)	6.0	8.0	8.0	8.0	早期に 7.0以上



改善した財務基盤の下、未来へ積極投資

前中計を上回る700億円超を計画



主な大型投資案件

- ・日本フルハーフ
塗装工場
厚木再構築
- ・日軽金アクト
新潟加工工場
- ・日軽エムシーアルミ
タイ第2工場
- ・東洋アルミニウム
蒲原連続鋳造機
インドペースト生産設備
- ・日本軽金属
電力設備更新

未来への糧 伝統資産の確実な継承

波木井発電所設備更新

【背景】

- ・1939年 運転開始
- ・老朽化 ⇒ 大規模修繕が必要

【概要】

- ・ 工事内容 導水路/水圧鉄管等土木工事
及び発電設備更新
- ・ 投資金額 87億円
- ・ 投資効果 発電効率10%アップ
- ・ 工期 2017年5月～2019年3月



未来の扉を開く更なる成長戦略（例）

日本フルハーフ 厚木再構築

- 目的 安全性向上
整流化による生産性向上、納期短縮
サービス事業への資源配分
省人化による労働人口減少対応

稼働開始 2019年4月



日本軽金属 北米マーケティング拠点

(市場)

- 自動車生産台数増加、環境規制(EV化、軽量化)
- 電機・電子ハイエンド品堅調
中南米等の需要増に伴う生産拠点拡大
- HACCP先進国、コールドチェーン



未来の扉を開く更なる成長戦略（例）

日軽エムシーアルミ インド第2工場建設

- 建設予定地（グジャラート州）は自動車産業が集積
- 日系メーカーへの溶湯販売をメインに、現地メーカーへの販売も目論む

稼働開始 2019年2月
想定能力 38,400t/年 （第1工場は31,200t/年）



日軽エムシーアルミ メキシコ工場拡張

- メキシコ国内での合金需要は増加
- 現有工場の隣地を取得し、インゴット工場建設を検討
- 現有工場と合わせて60,000t/年の販売を想定

稼働開始 2019年秋





チーム日軽金として異次元の素材メーカーへ

NLM 日本軽金属ホールディングス

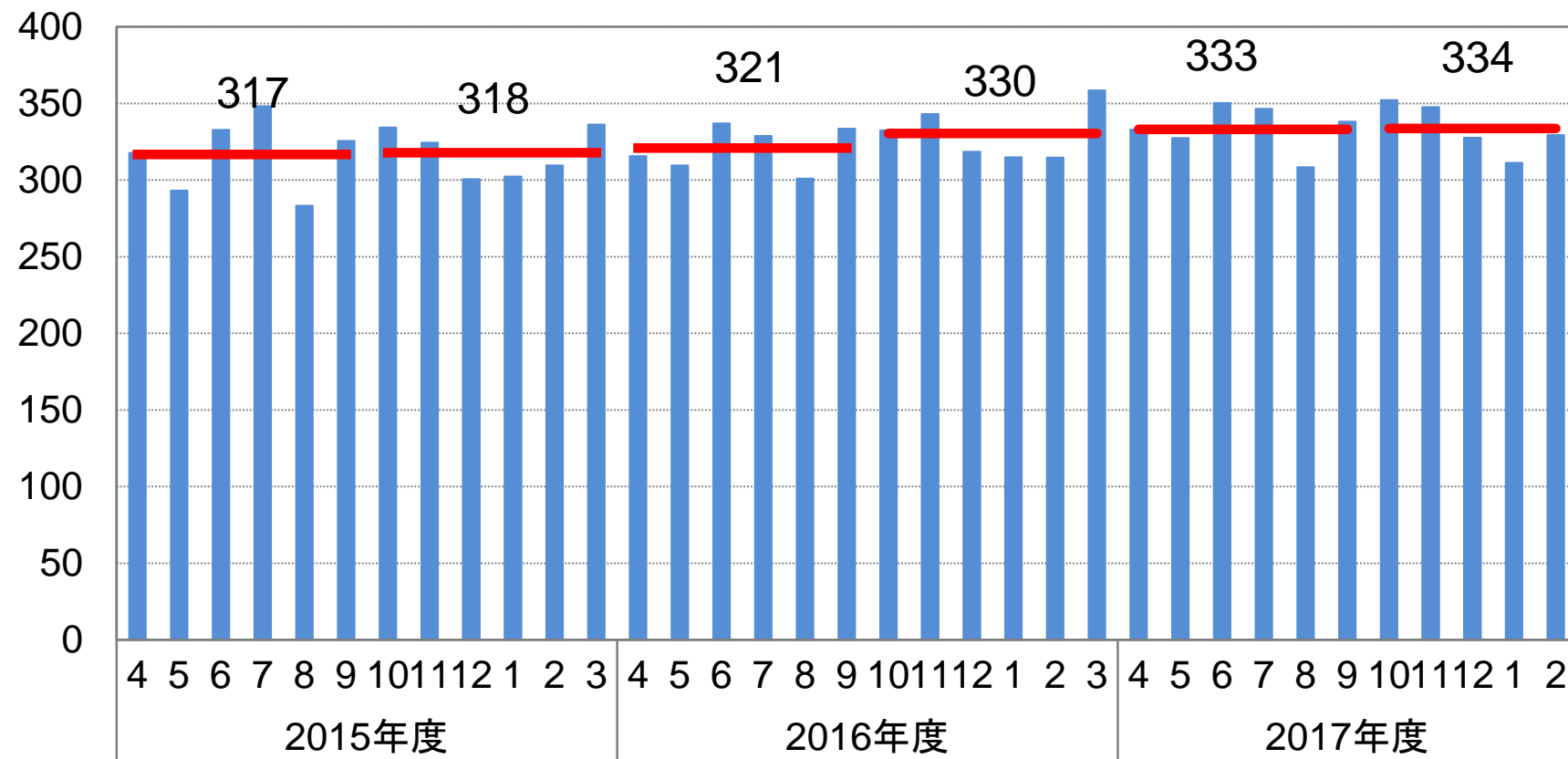
本資料についての注意事項

1. 本資料は2018年3月期の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の購入や売却を勧誘するものではありません。
2. 本資料のなかで記述しております将来の動向や業績等に関する見通しは、歴史的事実でないためリスクと不確定な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、予測しえない経済状況の変化などさまざまな要因により見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社グループを取り巻く経済情勢、社会的動向、当社グループの提供する製品やサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化などがあります。なお、業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。
3. 本資料の中で記述しております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、今後予告なく変更される場合があります。
4. 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

補足資料

国内アルミ製品総需要の推移

(千トン)



<出所:日本アルミニウム協会>

諸元と感応度

	2017年度 実績	2018年度 予想	経常利益への 感応度
アルミ地金 (円/kg)	282	290	10円/kg上昇した場合 △5億円/年
為替 (円/米ドル)	111	110	10円円高となった場合 △7億円/年
ドバイ原油 (米ドル/BBL)	56	60	10ドル/BBL上昇した場合 △6億円/年

2017年度決算 — 期初予想比

(億円)

	2017年度 実績	2017年度 期初予想	増減
売上高	4,814	4,700	+114 (+2.4%)
営業利益	299	300	△1 (△0.4%)
経常利益	295	280	+15 (+5.5%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	180	180	+0 (+0.1%)
有利子負債	1,400	1,450	△50
D / E レシオ	0.8倍	0.8倍	±0.0p
R O C E	10.7%	10.2%	+0.5p

セグメント情報 — 期初予想比

(億円)

	売上高			営業利益		
	2017年度 実績	2017年度 期初予想	増減	2017年度 実績	2017年度 期初予想	増減
アルミナ・化成品、 地金	1,111	1,070	+41 (+3.8%)	89	90	△1 (△0.5%)
板、押出製品	1,069	990	+79 (+8.0%)	98	80	+18 (+22.1%)
加工製品、 関連事業	1,690	1,670	+20 (+1.2%)	98	110	△12 (△11.1%)
箔、粉末製品	944	970	△26 (△2.7%)	49	55	△6 (△11.7%)
管理・共通			—	△35	△35	±0
合計	4,814	4,700	+114 (+2.4%)	299	300	△1 (△0.4%)

主要会社の業績

(億円)

	2017年度 実績			2016年度 実績			2017年度 期初予想		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
日本軽金属 (単体)	1,392	56	93	1,263	59	95	1,283	28	57
東洋アルミニウム (連結)	949	49	48	942	55	56	979	54	56
日軽エムシーアルミ (連結)	643	23	24	554	25	27	586	24	24
日本フルーフ (連結)	736	22	23	668	36	35	742	41	40
日軽金アクト (連結)	460	29	30	433	25	26	446	22	24

経常利益 — 前期比・期初予想比

(億円)

	2017年度 実績	2016年度 実績	前期比	2017年度 期初予想	期初予想比
経常利益	295	263	+32	280	+15

前期比 +32億円 の内訳

営業利益の減少	△3
為替差損益の改善	+5
持分法利益の増加	+9
その他	+21

期初予想比 +15億円 の内訳

営業利益の減少	△1
為替差損益の悪化	△2
持分法利益の増加	+4
その他	+14

親会社株主に帰属する**当期純利益** — 前期比・期初予想比

(億円)

	2017年度 実績	2016年度 実績	前期比	2017年度 期初予想	期初予想比
親会社株主に帰属する 当期純利益	180	195	△15	180	+0

前期比 △15億円 の内訳

経常利益の増加	+32
特別利益の減少	△29
特別損失の増加	△19
税金費用の減少	+11
非支配株主に帰属する 当期純利益の増加	△10

期初予想比 ±0億円 の内訳

経常利益の増加	+15
特別利益の増加	+3
特別損失の増加	△31
税金費用の減少	+11
非支配株主に帰属する 当期純利益の減少	+2

設備投資・減価償却費 — 前期比

(億円)

	設備投資			減価償却費		
	2017年度 実績	2016年度 実績	増減	2017年度 実績	2016年度 実績	増減
アルミナ・化成品、地金	59	42	+17	39	37	+2
板、押出製品	54	54	±0	52	50	+2
加工製品、関連事業	48	63	△15	40	38	+2
箔、粉末製品	50	40	+10	40	41	△1
合 計	211	199	+12	171	166	+5

キャッシュ・フロー計算書

2017年度

<源泉>

<使途>

営業活動による キャッシュ・フロー(※1) 259億円	設備投資等 149億円 (※2)
資金調達 160億円	借入返済等 265億円
現金・同等物の減少 58億円	配当金の支払い 63億円

(※1)
 税引前当期純利益 267
 減価償却費 171
 運転資金 △148
 法人税他 △55

(※2)
 有形固定資産取得 194
 投資有価証券売却 △41

2016年度

<源泉>

<使途>

営業活動による キャッシュ・フロー(※1) 365億円	設備投資等 119億円 (※2)
資金調達 186億円	借入返済等 378億円
現金・同等物の減少 2億円	配当金の支払い 56億円

(※1)
 税引前当期純利益 283
 減価償却費 166
 運転資金 △11
 法人税他 △70

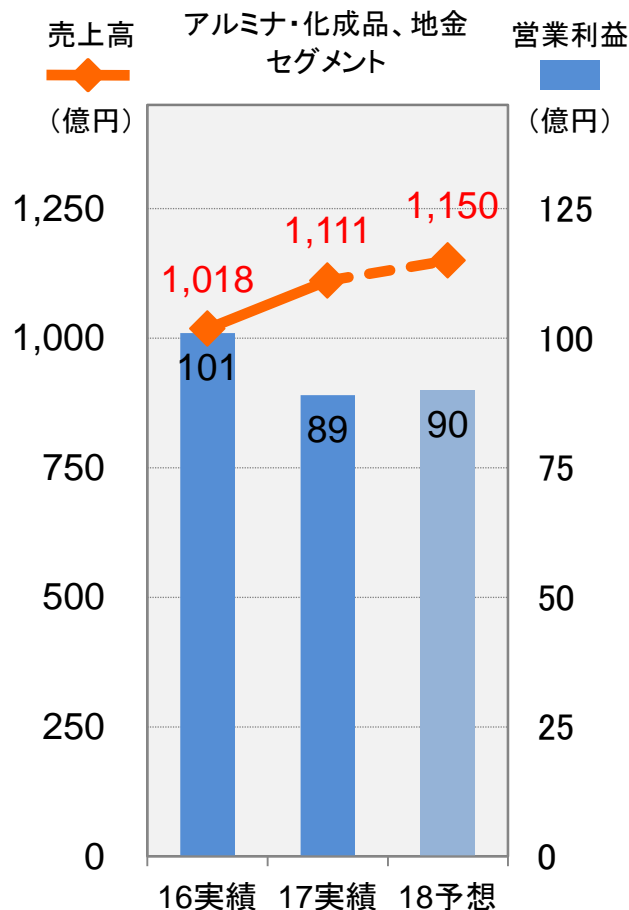
(※2)
 有形固定資産取得 170
 有形固定資産売却 △21
 投資有価証券売却 △33

セグメント情報 — 前期比

(億円)

	売上高			営業利益		
	2018年度 予想	2017年度 実績	増減	2018年度 予想	2017年度 実績	増減
アルミナ・化成品、 地 金	1,150	1,111	+39 (+3.5%)	90	89	+1 (+0.5%)
板、押出製品	1,120	1,069	+51 (+4.7%)	100	98	+2 (+2.4%)
加工製品、 関連事業	1,760	1,690	+70 (+4.1%)	105	98	+7 (+7.3%)
箔、粉末製品	1,070	944	+126 (+13.4%)	60	49	+11 (+23.6%)
管 理 ・ 共 通			—	△35	△35	±0
合 計	5,100	4,814	+286 (+5.9%)	320	299	+21 (+7.0%)

アルミナ・化成品、地金



アルミナ・化成品

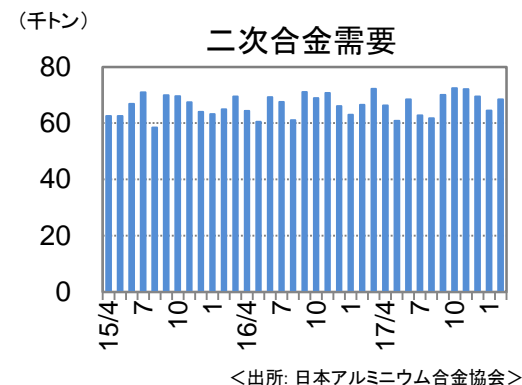
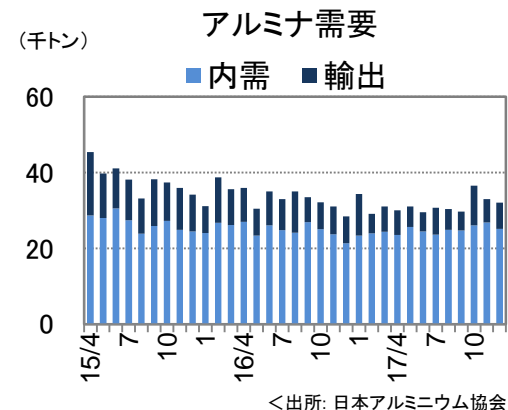
- 原燃料価格高騰に対し価格改定
- ファイン製品向けアルミナ、医農薬向け有機塩化物の拡販
- 高付加価値品の海外販路開拓
- 新商品の開発・新規探索の強化

日軽エムシーアルミ

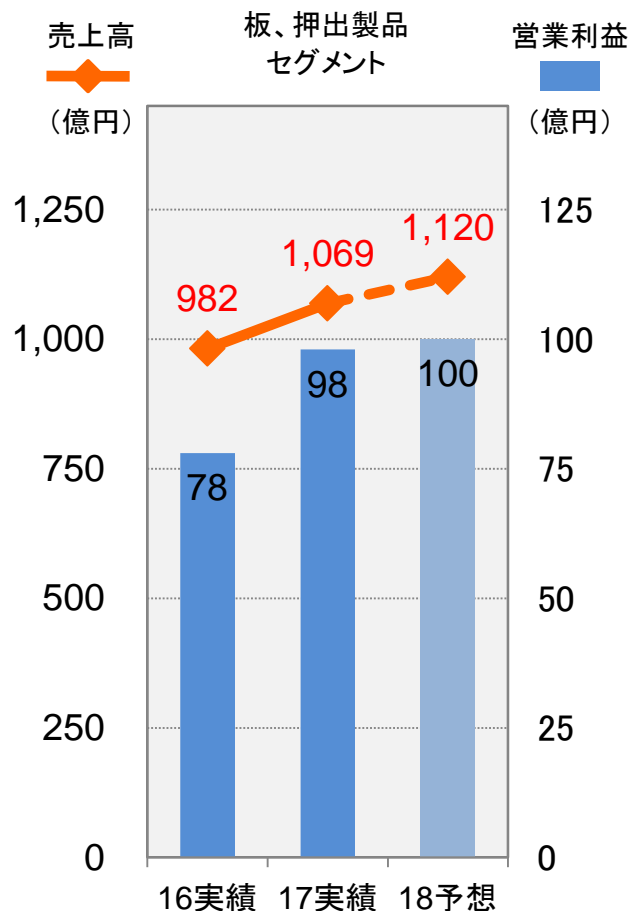
- 国内:自動車生産は横ばい、軽量化や電動化ニーズへの対応強化
- 中国:電機電子産業への拡販
- 米国:車体構造体向け材料の拡販
- タイ:第2工場フル稼働、工場改善による生産コスト低減

日軽エムシーアルミ販売量 (千トン)

	16年度		17年度		18年度	
	実績	実績	増減	予想	増減	
国内	142.2	138.7	△2%	138.8	+0%	
海外	138.6	143.1	+3%	144.3	+1%	
合計	280.8	281.8	+0%	283.1	+0%	



板、押出製品



板

- 半導体製造装置関連需要堅調
- 電機電子向け材料の拡販
- 短納期・多品種・小ロット等、顧客ニーズへの細かい対応
- 原燃料価格高騰に対し価格改定

板事業部販売量 (千トン)

	16年度		17年度		18年度	
	実績	実績	増減	予想	増減	
	86.1	85.2	△1%	88.8	+4%	

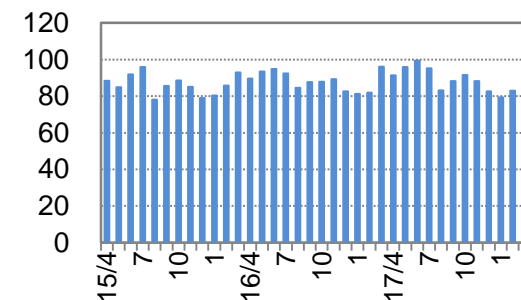
日軽金アクト

- 環境対応車向け、通信関連で増販
- 自動車部品の一部で搭載車種数量減
- 海外拠点収益力強化

日軽金アクト販売量 (千トン)

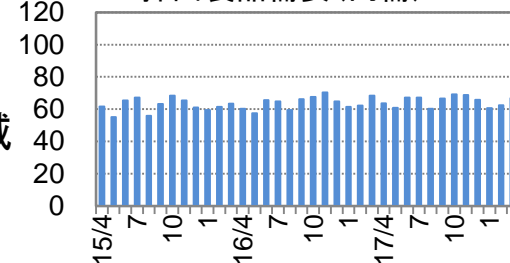
	16年度		17年度		18年度	
	実績	実績	増減	予想	増減	
	41.9	43.4	+4%	42.2	△3%	

(千トン) 板製品需要(内需)



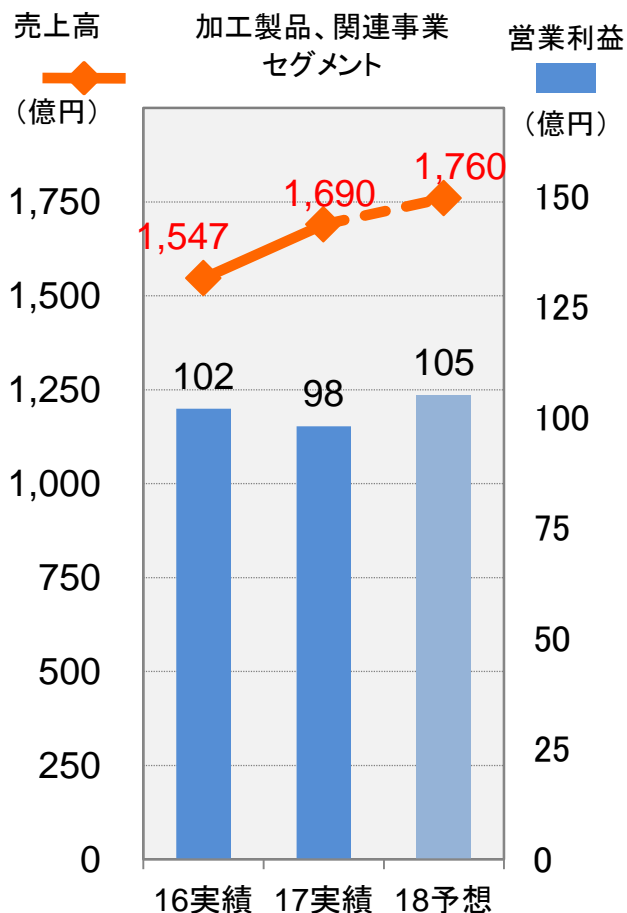
<出所: 日本アルミニウム協会>

(千トン) 押出製品需要(内需)



<出所: 日本アルミニウム協会>

加工製品、関連事業



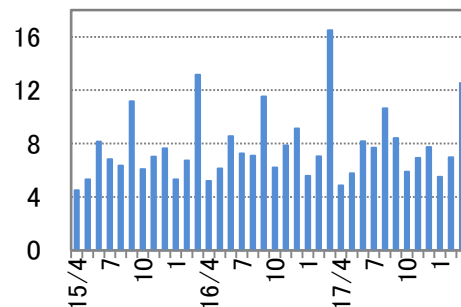
日本フルハーフ

- 需要高水準継続
- グループ連携で生産能力増強
- サービス事業強化
- 海外事業の収益改善
- 厚木工場再構築で安全性向上、生産性向上

日軽パネルシステム

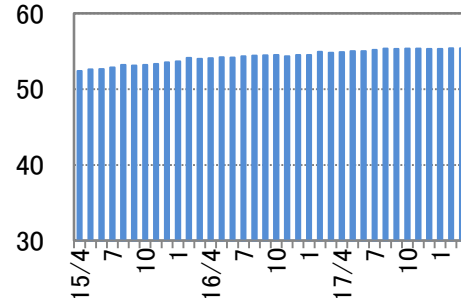
- 需要堅調継続で事業高水準維持
冷凍・冷蔵…HACCPなど
クリーンルーム…半導体、医薬
- 医薬関連の展示会へ出展し、認知度向上を図る
- 日本フルハーフとの協業でASEAN地域でのコールドチェーンビジネス展開

(千台) 普通トラック登録台数



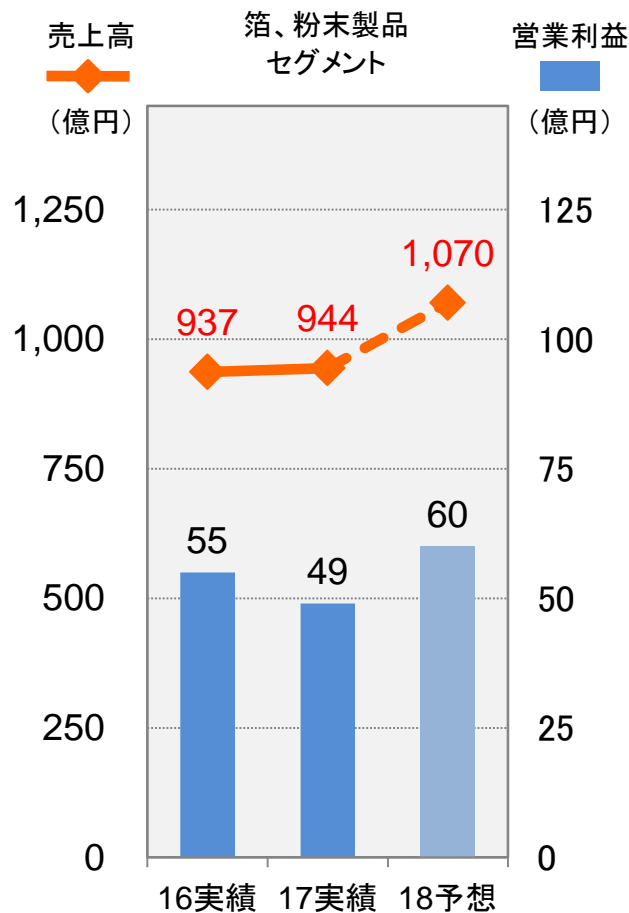
<出所: 日本自動車販売協会連合会>

(千店) コンビニ店舗数



<出所: 日本フランチャイズチェーン協会>

箔、粉末製品



東洋アルミニウム

<箔事業>

- リチウムイオン電池外装用の拡販
- トーヤルカーボ、トーヤルチタン等独自製品の拡販

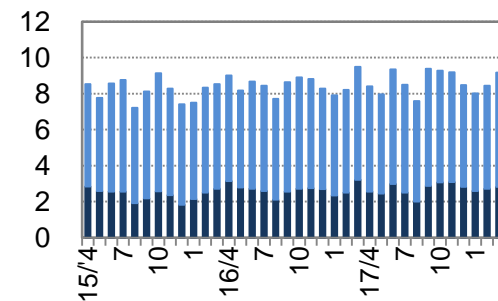
<パウダー・ペースト事業>

- 窒化アルミ等高付加価値品の拡販
- 自動車用輸出向けアルペースト販売好調
- インド新会社の生産開始によりインド市場での拡販とアセアン・中東・アフリカでの販売数量増加

<ソーラー事業>

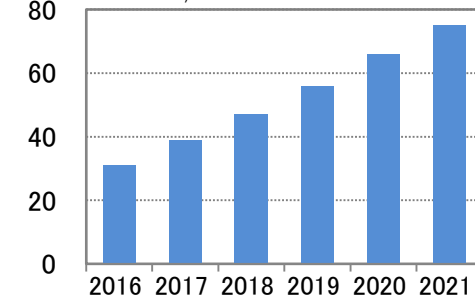
- 次世代型太陽電池向け製品の拡販
- 軽量モジュール販売開始

(千トン) 箔製品需要
■ コンデンサ箔 ■ その他の箔



<出所: 日本アルミニウム協会>

太陽電池需要予測
- EPIA, Medium scenario 2017 -



<出所: European Photovoltaic Industry Association>

主要会社の業績 — 前期比

(億円)

	2018年度 予想			2017年度 実績		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
日本軽金属 (単体)	1,439	46	79	1,392	56	93
東洋アルミニウム (連結)	1,085	59	61	949	49	48
日軽エムシーアルミ (連結)	686	23	24	643	23	24
日本フルハーフ (連結)	753	30	30	736	22	23
日軽金アクト (連結)	473	26	28	460	29	30

設備投資・減価償却費 — 前期比

(億円)

	設備投資			減価償却費		
	2018年度 予想	2017年度 実績	増減	2018年度 予想	2017年度 実績	増減
アルミナ・化成品、地金	96	59	+37	38	39	△1
板、押出製品	50	54	△4	53	52	+1
加工製品、関連事業	72	48	+24	40	40	±0
箔、粉末製品	82	50	+32	40	40	±0
合計	300	211	+89	171	171	±0

